

視察・研修報告書

視察・研修先	鎌倉市役所
日 時	令和6年7月4日（木）
場 所	神奈川県鎌倉市御成町18-10
テーマ	放課後かまくらっ子について
対応者 (講師)	神奈川県鎌倉市 子どもみらい部青少年課 小林課長
概 要	
<p>16校 小学校あり 指定管理者 協定6校</p> <p>最初に始めたのが、学童H29年4校スタート 徐々に増加していった</p> <p>鎌倉の子どもたちを、かまくらっ子と、以前から呼んでいる 放課後を豊かな体験の時間に アフタースクール、学童保育の一体化 あそびや生活の場を提供する。 すべての児童が放課後の時間を安全・安心に 登録児童は1年生が多い</p> <p>1 安全な居場所の確保 2 全ての児童が安心して暮らせる 3 体験活動を通じて生きる力を育む</p> <p>学校に隣接した建物 学童保育、分けしてある</p> <p>登録した子どもによって変わる 運営は、全て指定管理による運営</p> <p>I 基本理念 出あう・つながる・ふるさとで自ら育つ</p> <p>1 地域の様々な人・モノ・コトと出あう 2 出あいを通じて人や生き方、 3 つながりの中で地域に親しみを感じ、子どもたちが自ら育つ力をはぐくむ 4 地域住民や中高生、大学生など、放課後かまくらっ子に関わる全ての人にとっての 共育の場となる 5 地域住民が参画した放課後かまくらっ子の活動を通じて地域づくりを進めていく</p>	

基本理念 推進部会 子どもの支援に携わる地域の方たちと

自ら育む

一緒に何かやってみる

地域の方たち

放課後かまくらっ子の体制について

放課後かまくらっ子の進行管理

継続課題・取り組み等

子どもまんなか実現

子どもたちの居場所感向上・支援員スキルアップ

学校・地域との連携強化

特別な配慮が必要な児童への対応

日常の活動の参加

たくさん会議を行っている

市の職員が定期的に、循環していている

コーディネータ会議

指定管理の会議

◎支援員の役割

1 遊びや体験の支援

子どもは遊びや体験を通じて自主性・社会性・創造性が培われ成長します

子どもにとって、放課後が好きなことに没頭できる輝かしい時間となる支援を行います。

→子どもにとって、放課後かまくらっ子が自分の好きなことに没頭できるような充実した居場所となるよう環境の整備と、遊びや体験の支援を行います。

2 生活の支援

幼児期・児童期の子どもは基本的な生活習慣の習得が大切です

子どもの生活を時間・空間の両面から捉え、子どもの発達段階や実状に合わせてながら放課後かまくらっ子での生活などを組み立てます。

3 発達・育成の支援

子どもの生活環境・個性等は様々です

放課後かまくらっ子では、子どもの多様性を踏まえながら、遊びや体験を通じた一人ひとりの個に応じた発達を支援します。

また、必要に応じて関係機関へ支援をつなぎます。

4 安全・保健

子どもが自らの安全に配慮して行動するとともに、他者の安全にも目を向けて生活・行動できることが大切です

放課後かまくらっ子での施設環境を整えて、危険から子どもを守るとともに、子ども自らが安全や健康を管理し、他者にも配慮しながら落ち着いて行動できるようにするための支援や活動を行います。

5 地域や学校、保護者との連携

子どもは地域社会の中で生きています

そのため、地域とつながりを持ち、地域と交流を深めることが大切です。放課後かまくらっ子では、様々な地域住民や地域団体との関わりを子どもがもてるよう環境整備を重視するとともに、学校との連携も深め、一人ひとりの子どもの状況に合わせた地域社会における成長に目を向けて、支援します。

また、保護者とのコミュニケーションを通じて、子どもが育つ家庭での生活を支えます。

◎放課後かまくらっ子に関わる

スタッフの行動規範（スタンダード）

1 子どもとの会話

①子どもが話しかけやすい・ホッとする関係を構築する

【取組むこと】

★子どもが「〇〇さん」やニックネームなどでスタッフを呼べる環境を作る

「〇〇君・さん」など名前で呼ぶ

子どもを見守る姿勢に注意する

腕組みなど威圧的と捉えかねない姿勢をとらない

★大人の意見より、まずは子どもの話を傾聴することを優先する

②スタッフのいずれかが

一人ひとりの子どもと必ず会話するようにする

意識して多くの子どもに声をかけるようにする

←他のスタッフと子どもとのやりとりにも気を配る子どもの小さな変化などに気づけるように心がける

③子どもに共感し、子どもの話に興味をもつ【取組むこと】

スタッフ間で子どもの関心事や困りごとなどを日常的にシェアできるようにする

子どもの趣味や頑張っていることを知るように努める

④子どもと関わる支援員として相応しい丁寧な言葉遣いをする

【取組むこと】

←威圧的と捉えられかねない言葉を使わない

身体的特徴などを揶揄するなど人権を侵害するような発言はしない

2 子どもとの関わり方

①子どもの自主性を引き出す

【取組むこと】

★子どもへの指示は最小限にする

子どもを信じて長期的な視点での成長を大切にし、必要以上に手伝わない

子ども同士で課題に向き合わせるような環境を整備する

子ども同士で考え、解決できる機会を大切にする

②子どもがワクワクする時間を提供する

【取組むこと】

子どものやりたい気持ちを大切にする子どもの最善の利益を考える

子どもの意見を具現化する仕組みをつくる

③子どもに寄り添った柔軟な対応する

【取組むこと】

時と場に応じて、見守りだけでなく一緒に遊んだり、関わったりする

★発達段階や個性等の多様性に配慮して関わる

3 保護者との関係

①常日頃から保護者とコミュニケーションをとることを意識する

【取組むこと】

挨拶を丁寧に行う

お迎え時にはできるだけ施設内で待ってもらい、子どもの活動の様子に触れられるようにする

②子どもに注意したこと、子ども間のトラブル、ケガなどあった場合は、状況を詳細に把握したうえで事実報告を行う

【取組むこと】

事実関係を把握するために本人への確認とともに周りの子どもへの聞き取りを必ず行い、時系列のメモを作成する

4 スタッフ間の連携

①子どもの様子・変化や、情報についてスタッフ間で共有する

【取組むこと】

子どもからの「なんで」「どうして」といったつぶやきを会議等の議題として取り上げる

子ども目線での会議や事例研究会を行う

全員が発言する機会を意図的に設定した打合せを実施する

★会議や研修の内容は、施設内で共有する

②スタッフ間のコミュニケーションの機会を多く設定し子どもが明るいと感じるような雰囲気を保つ

【取組むこと】

誰もがどんな意見でも言えるような雰囲気をつくる

お互いにニックネームで呼んだり、さんづけしたりして（先生の呼称は不可）、フレンドリーな感じを出す

③新しい事・考えを取り入れ、チャレンジをおそれない

【取組むこと】

「こどもまんなか」の目線で物事を捉えなおす

★これまでばく然としてきた方法ややり方を見直す

長期休み前等、定期的に従来のルールややり方を考え直す会議を設ける

5 施設の広報・掲示物

①子どもの写真・作品を、子どもや保護者の目が向きやすい所に積極的に掲示する

【取組むこと】

子どもの作品コーナーを作る

②保護者の関心や理解が深まるような広報を行う

【取組むこと】

玄関等にイベント等の写真やポスターを掲示する

お迎えの際に保護者が（短時間でも）施設内を見られるようにする

③メールやSNS等を利用して施設での様子を広く発言する

【取組むこと】

定期的にジャーナルを発信する

ルールや決まりの変更、スタッフの異動など子どもの生活に関係する変更はすみやかに保護者に共有するイベント告知、イベント報告を発信する

6 その他

①子どもの安心・安全を保証する

【取組むこと】

子どもの手の届く場所に危ないものを置かない

※子どもの目線になり、環境を見直す定期的な検査を毎月一度以上実施する

★不登校傾向の子どもも希望に応じ午前中に施設で過ごせるようにする

②施設は清潔に整理や清掃を心掛ける

③プログラムは希望者ができる限り参加できるよう配慮する

【取組むこと】

日常的に気軽に参加できるプログラムを実施する

④こうあるべきという意識やルールを常に見直すため、青少年課や他の施設、外部からの意見を聞く機会や情報共有の場を定期的に設ける

所 感

今回の視察では、旧図書館をリノベーションした「放課後子どもひろば おなり子どもの家」という施設があり、ランドセルクラブだけで使える施設があるのは、とても良いと思った。そして、小学生が使用していない時間、乳幼児親子の遊び場提供の利活用には、感銘を受けた。以前よりとても興味があり、私が子育て中は、子どもが飽きるのでいろんな児童館に行った。本市も、是非利活用について考えていきたい。支援員の確保に力を入れているので、他市と比べて給料が高かった。

学校と地域が一体化となって出会う・つながる・ふるさとで自ら育つというテーマをもとに活動されており、本市と似ていることがあった。今後も、ランドセルクラブの子どもたちが、核家族が進む中、日頃体験することができないことを提案し、楽しいという声が聞こえるようにがんばっていこうと思う。とても勉強になった。

-作成者 岡部 かおり -